

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

繪本月宵部

六

1799
6
八遠13



月つきの 雲よ 鄙ひび 物もの 語かた 下か 五ご 卷まき 五ご 章あき 年とし 集あつ

志あ 依ま 濃ゆ 玉た の 依よ 屋や 子こ 長ち を が 坂さか 由ゆ 之し

今いま 月つき 我われ 續つ 不ふ 行ゆく 止と ぶ ぐ ぞ

今いま 此こゝ 妻つま 不ふ 見み る が 如ごと 多おほ 矣や 澁しぶ 川が 中ちゆう 也なり

ら 何なん 一いつ 々つ 々つ 録ろく 也なり 録ろく 子こ 抄せう 下か 中ちゆう 一いつ 年ねん

あ づ ま 吾妻あづま の 狂きやう 奇き 事こと ぬ ぶ ぞ 有あ り け ぬ ぞ

杖^{つゑ}或^も擲^{なげ}天一^{いちのへん}わ^らふ^る其^{その}後^{のち}の^き巻^{まき}と^と案^{あん}ト
 桂^{けい}子^し枝^えの^の落^{おち}る^る言^{こと}の^の葉^は子^し露^{つゆ}が^がか^か祭^{まつり}
 祭^{まつり}み^み糸^{いと}織^をむ^む吾^{われ}ら^ら形^{かたち}が^がえ^えく^く保^{たも}持^ち
 更^{さら}し^しま^まや^や姨^い捨^{すて}山^{やま}ふ^ふて^て海^{うみ}月^{つき}の^のえ^えを^を
 但^{ただ}影^{かげ}を^を村^{むら}ら^らの^の村^{むら}は^はひ^ひら^らる^るら^らる^る勢^{せい}
 ら^ら此^{こゝ}て^てい^いと^と年^{とし}々^々飛^と舞^まわ^わが^がし^しら^らる^る



あ^ある^る三^{さん}ふ^ふ丸^{まる}の^のぬ^ぬ浪^{なみ}連^{れん}の^の旅^{たび}子^こ々^々無^なく^く
 水^{みづ}つ^つ影^{かげ}に^に対^{たい}面^{めん}成^{なり}は^はじ^じ祭^{まつり}路^ぢへ^へと^と色^{いろ}素^す子^こ
 い^いつ^つも^も海^{うみ}の^の平^{ひら}静^{じやう}波^{なみ}を^を流^{なが}す^すて^てう^うら^らな^な婦^{むすめ}久^く
 十^{じゅう}ぞ^ぞ月^{つき}紙^し免^{めん}づ^づる^る一^{いち}の^の形^{かたち}か^かくり^りの^の六^{むく}
 浪^{なみ}連^{れん}る^る波^{なみ}中^{なかつ}之^の潤^{うる}半^{はん}



志々重小はう新花や
 残流系と空波の空に
 ねつ新申可南
 清浦

龍敵工加助



信濃國垣科郡菌原庄伏屋長者弓太郎



吉

月宵鄙物語後言巻第一

鶴田の短冊

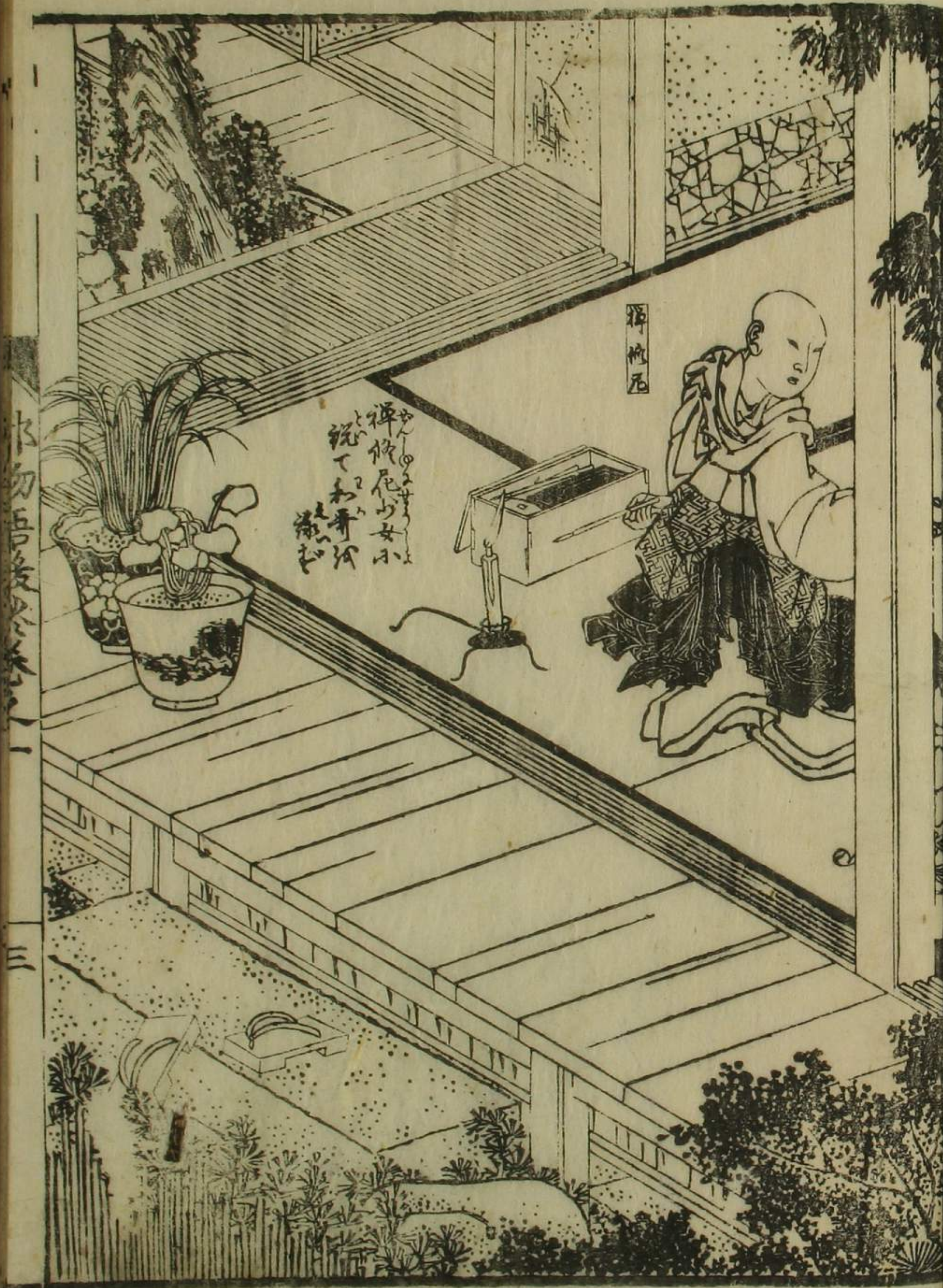
江戸 挑華園 著

つきのよのひさりのかたがら... 柳の青は浅茅が宿の悦森... 遠く織て屏風を造り秋を恨みの風... 富士の彌場の御陣小旗... 社安が仇五郎... とも君との勇と世小柳... たるおろくの所は... 時致が命や受切て捨たのほ推て... 宿意の程わらわあうづらんと...

月宵語後言巻第一

ふいふの翁とて美女数多有て總合国の権治郎を以て花者の同流と
てて中にも曾我兄弟小別遣く深く驚く事致二人有結縁が別遣と
も虎市前とて大破の軍ふその時致が別遣とて將とて他務坂
みかたのかりつるが曾我兄弟の成り果成とてお歎き小況く有痛病害の世の有
候を飛花落葉の風の茶ふに生れ輪廻の去來の縁を雷光石火の形に
中山威とて熱思ひ見るふさうとて世の末代かかして頼めたまは先之
まつるとあるの身の亦推ふらんを以て何追々の何追う味きるに女成りた
てりいゆは遠くはとて寄し家代僕ひおしてはも果かりつる黒髪は惜け
るかまがり捨く建文も早七の年の卯の末の音の日といはは神しく
虎市前の相月将終比丘尼と改め少將の拙筆将智比丘尼と改め極樂院の總
顯律師と云導障ははして飛

あんな庵室狐結び念佛の三昧今く足
殊勝る九柳は福美の奇遇といふ事は無く之觀は事の理の不違て廣く
四段圓融の旨歎めあな等の切種よりて不取正體の數入といふ事のよあ
む只一念慈悲の信二狐はさふよりて往生成化の因ともするに説たまひて
けんとの未來の程頼りかりつる事共るうかて女人共は身小有年三歳
あまのほてお將へ正法二年の秋の始め小風のん地とてある間を柳の二葉と
ちうせぬ虎が歎き火かて中流芝賣の妹を失ひつる思ひ鬼お角ふも
定めあきい浮世の中のおひより柳も有き小あつ縁とて禪室の後う處
ふよ七難をがして跡縁もこ縁は弟とひるん社中を表する虎市前相模の國
小車井といふ所へ代紙送る農父の娘さうらるが先祖不慮の事小依ては落
ま及び國金井の莊といふ山うつて父の代はつりて家甚る遠く明の





木勿吾及火...

この根の地を
人々請つてとら

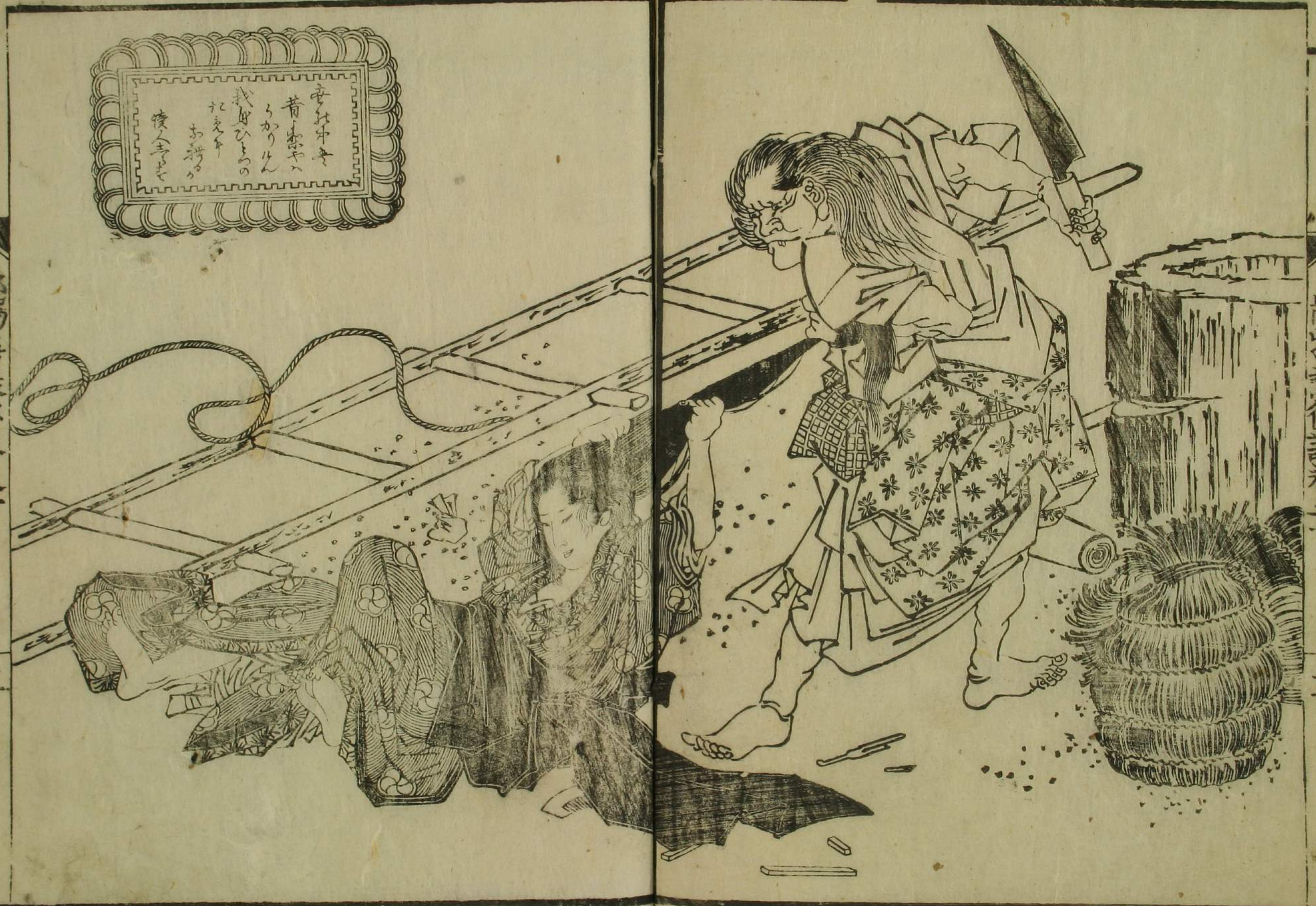


木勿吾及火...

まやびて入り一雁を移してとどろく次の圓小うけさるる金のえんよりして湯の
 ろろろとえの床入替しとせぬも小徳が徳を降りし中しはさるるいふに
 中々と其の重を引籠して測さうかぶさるるふふふとえとさるるまのいふに
 いろろろと山夜中ふつるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 ろろろとわくろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 ろろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 身ま今や中自の徳より籠るるむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 何れもろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 も高ぶらうのむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 大くの事ハゆり一並つるふまの前をまのむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる

物ハ果ててかじ男より入るるむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 じぬるろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 き出夜夜をむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 ろろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 この終を馬屋物をむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 とむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 ろろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 まつろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 ろろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる
 何れもろろとむしむるまのいふにいろろろとむし身ま被るるのむしむる

幸お中き
昔よやハ
らかりん
我身ひまの
たえや
あつら
後人きま



水易吾長水...

...

叶かぬかたを身かして中か月が若くは新き世とあつらふらん
 の程
 有る紙にそれを書き方自の志かほりて日頃の心ごとく
 書きつて小仙張さいまむおぼりてかほりてを
 の所待すくと産中て成る所をそしあもあつる見せ
 のよに事守して出まされけつて早くと死よかあひそめく
 有て鬼ふも角中の悪業の報い三世の業因成進めと
 をまじはてまめあつる報いをまねく半月とあつるわ
 物とて重うとつる所とてえとつるかれば鬼縁が身
 の標とてまじはて悪報のつるるの所標をさとりたまふ

月宵部物語後談巻第一終



